

## 令和4年度事業報告

### 1 協議会全体としての取組み

#### (1) 農林水産省の補助事業を活用した活動

国産シルクの新たな市場開拓を図るため、消費者の関心の高いオーガニックシルクについて、「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」の策定と群馬県蚕糸技術センターにおいて有機繭の生産実証事業を行った。

また、その普及を図るため養蚕農家等に対するガイドラインの説明会を全国7カ所で行うとともに、FOODEXJAPAN2023に出展して国内外の実需者に有機繭の生産に向けた取組みを紹介した。

さらに、消費者等へシルクの良さを科学的エビデンスに基づいて分かりやすく情報提供するための手法についても検討を行った。

#### (2) 協議会独自資金による活動

新型コロナウイルスの影響で2年間開催できなかった会員相互の交流の場としてネットワーク交流会を2月にハイブリッド方式で開催した。

### 2 各分科会における取組み

#### (1) PR分科会

農水省と協力して若手養蚕農家と情報交換会を開催し、若手養蚕農家の活動PR・シルク関連商品の開発支援を行った。また、HPの更新作業も継続して行い、各分科会と協力して情報発信に務めた。

#### (2) 蚕糸分科会

農水省と協力して若手養蚕農家の情報交換会を開催し、若手養蚕農家のネットワーク化を進めた。また、国産シルクの新たな需要開拓を目指す事業者とそのような取組みに関心のある意欲ある養蚕農家とのマッチングを図るための意欲ある養蚕農家のリスト化を進め、PR分科会の協力を得てホームページを通じて情報発信を行った。

また、蚕糸関係の各地の博物館と連携して、夏休みに子供たちにカイコを配布し、カイコの飼育を体験してもらう「カイコを育てよう！2022」の取組みを行った。

#### (3) 新機能シルク分科会

「超極細・高染色性生糸」のビジネス化に向け、飼育マニュアルの改訂を行ってSOP化を行い公開した。また、超極細・高染色性繭糸生産系統などの遺伝子組換え品種の飼育範囲を稚蚕に広げることを狙い、まずは隔離飼育試験のための第一種使用規定の作成と承認申請を行ったところ、令和5年3月17日に農林水産省及び環境省による生物多様性影響評価検討会総合検討会が開催され、超極細／高染色性、アザミグリーン、F90それぞれの遺伝子組換えカイコについて、「第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影

響が生ずるおそれはない」と大臣あてに報告された。

(4) 繊維分科会

昨年度農水省の助成を得て行った 超極細・高染色性生糸の特性を活かした絹製品のビジネス化を進める為、引き続き製品開発・改良に取り組んだ。また各地の国産生糸を使用した横編み用ウォッシュブルシルク糸の開発・改良販売に取り組んだ。

(5) 新用途分科会

他学会との協賛等による講演会や交流会の実施を通じて、会員間の交流を進めた。また、新用途分科会の会員間での共同研究を締結し、シルクの用途拡大に努めた。